

## 10. オランダ柔道指導者の柔道指導に対する 基本理念に関する調査 —子どもの指導を対象に—

大東文化大学	高橋 進
埼玉学園大学	野瀬 清喜
横浜国立大学	木村 昌彦
鹿屋体育大学	中村 勇
山梨大学	小山 勝弘
講道館	向井 幹博
講道館	小志田憲一
群馬県立安中総合学園高等学校	森 英也
鹿児島大学	與儀 幸朝
東京都練馬区立貫井中学校	高橋 健司
了徳寺大学	石井 孝法
全日本柔道連盟	田中 裕之
順天堂大学	竹澤 稔裕
筑波大学附属高等学校	鮫島 康太
Nova College CIOS Haarlem	Joop Pauel

## 10. Study on the Basic Principles of Judo Instructions in Dutch Judo Leaders -For Instructions of Children

Susumu TAKAHASHI	(Daito Bunka University)
Seiki NOSE	(Saitama Gakuen University)
Masahiko KIMURA	(Yokohama National University)
Isamu NAKAMURA	(National Institute of Fitness and Sports in KANOYA)
Katsuhiro KOYAMA	(Yamanashi University)
Mikihiro NUKAI	(Kodokan)
Kenichi SHOSHIDA	(Kodokan)
Hideya MORI	(Annaka General Academic High School, Gunma)
Yukitomo YOGI	(Kagoshima University)

Kenji TAKAHASHI	(Nukui Junior High School, Nerima Tokyo)
Takanori ISHII	(Ryotokuji University)
Hiroyuki TANAKA	(All Japan Judo Federation)
Toshihiro TAKEZAWA	(Juntendo University)
Kota SAMESHIMA	(Senior High School at Otsuka, University of Tsukuba)
Joop PAUEL	(Nova College CIOS Haarlem)

### Abstract

The purpose of this study was to clarify the teaching philosophy of Dutch Judo leaders, focusing on Judo teaching for children. In addition, for the purpose of obtaining more objective evidence, we also requested the provision of instructional videos. The obtained results are as follows, and it became apparent that the Dutch leaders themselves are constantly learning how to teach. It is required that we must reconsider the training system for Japanese Judo Instructor and physical education teachers in future, to understand "Fun Judo lessons" and "Safe Judo instruction" from a global perspective.

(1) The results of the responses "Children's motivation 31%" and "Fresh feeling 22%" suggest that Dutch Judo leaders attach great importance to motivation and ingenuity in teaching children.

(2) In Japan, the primary issue of Judo instruction has long been regarded as its "safety", but in the Netherlands as well, its "safety 14%" is the guiding principle as shown by the questionnaire results.

(3) It was cleared that Dutch Judo leaders also sympathize with "Recharge of children's ability to learn by themselves" and "Interaction between leaders and children" in their guiding principles.

It was also suggested that Dutch Judo leaders thought Judo instruction was not limited to the instruction of Judo technology, but it emphasized the learning of the child's mind. It is noteworthy and meaningful.

(4) The answer results of "Easy to understand 17%" and "Fresh feeling 22%" indicate that Judo instructors always stand on the side of the learner. At the same time, it is suggested that the subjects of this survey are constantly learning about teaching methods.

## I. 緒言

平成29年には、幼稚園・小学校・中学校において、翌年平成30年には高等学校において学習指導要領<sup>3) 4) 5) 6)</sup>の改訂がなされたことは周知のとおりである。その中で、新学習指導要領・保健体育科の中学校体育では、前学習指導要領と同様7領域が取り上げられ、小学校から高等学校までの12年間を見通して、「各種の運動の基礎を培う時期」「多くの領域の学習を経験する時期」「卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わるができるようにする時期」といった発達

の段階のまとまりを踏まえ、小学校段階との接続及び高等学校への見通しを重視し、指導内容の系統性が改めて整理されている。更に中学校体育では、武道並びにダンスは、今回の改訂においても男女必修とされ、より充実した学習指導が求められることとなった。

何れにしても、既述したとおり我が国においては、幼稚園から高等学校に至る学校体育の中で、発育・発達軸に沿った系統的・合理的、且つ多岐にわたるスポーツ学習が担保されている。そして、課外活動として生徒・児童の嗜好に合ったスポーツを学校に居ながら、しかも無料で享受し得る教育システム、部活動を有していることは、日本の体育・スポーツ教育の特徴であることは言うまでもない。昨今、この部活動がブラックであるとか、教員の過大負担の原因となっているという理由等で、外部指導者の活用や当該教育委員会の管理地区内における総合型クラブ活動に一部移行されるなどの社会的変容が生じてきてはいるものの、その重要な役割は、その教育的価値が多面的になったからこそ尚脈々と現存していることも事実である。そのような意味においては、我が国は、学校体育型のスポーツ実践をとおしてスポーツそのものの発展がなされてきたことは間違いない。

ところで、学校体育に依らず、クラブスポーツを中心に、スポーツの振興と発展が図られてきたヨーロッパ諸国のスポーツ事情は、我が国とかなりその状況が異なる。勿論イギリス<sup>1)</sup> <sup>8)</sup> やドイツ<sup>7)</sup> などでは、我が国で言うところの学習指導要領は存在し、改訂を重ねながら今日に至ってはいるが、学校よりも学校外の方がスポーツを教えるのに好ましいといった発言も支持され、教科体育と課外学校体育の連動といったシステムが存在しないままに、いわゆるヨーロッパ型のクラブスポーツが隆盛を極めている。

「世界で子どもが最も幸せである」と言われているオランダにおいても、各学校で教える教育内容の自由が保証されている<sup>2)</sup> もの、オランダ文部科学省（OCW：Ministerie van Onderwijs, Cultuur en Wetenschap）は、小学校・初級中等学校に対して、Core Objectives Primary Education（小学校）、Core Objectives Lower Secondary Education（初級中等学校）を提示し、体育・スポーツもその中で必修とされている。

さて、ヨーロッパの中でも教育の自由度の高いオランダであるが、近年その体育教育に若干の変化が起きている。特に、世界的スポーツである柔道が、今や、学校体育として取り上げられる例は、ドイツを筆頭に、オランダでも散見されるようになった。オランダでは、スポーツクラブでの柔道普及については、ヨーロッパの中でもかなり進んでおり、子どもの柔道人口も多く、スポーツクラブにおける柔道指導者（有資格者）の養成にも力を注いできた。そして、学校体育で柔道を取り上げる場合も、言わば社会体育における柔道指導者の活用が盛んであり、その指導方法も確立されている。

ところで、オランダの体育授業、並びに柔道授業について、平成30年度全日本柔道連盟・武道等指導充実・資質向上支援事業委託事業報告書では、以下の結果を報告している。

- 1) 「オランダの柔道愛好家の体育授業に対する評価については「体育に対する感情的側面」がやや高く、「効果的な認知」は中庸であった。即ち、体育授業に対する愛好的態度は良好であるが、体育授業の効果的特性を高く評価するものではないことが示唆された。
- 2) 柔道授業に対する好意的態度（愛好的態度）は、体育を専門とする学生も含め「非常に高く」、体育授業のそれを上回る評価であった。
- 3) 柔道授業に対する有能感もかなり高く、授業の雰囲気の良いが学習者の有能感を育てるためであると仮定できた。

既述のように、オランダにおいては、日本で課題視されている「楽しい柔道授業・クラブ指導」への課題感はなく、「柔道は楽しいスポーツである」ということが当たり前のこととして示唆された。

本緒言冒頭で、日本型体育教育の特徴と言わば長所を示してきたが、中学校における武道必修化において、特に柔道授業に課せられた課題は、「安全性の担保」「生徒の愛好的態度が高まる楽しい柔道授業」であり、折角の日本型体育教育の長所を生かしきれずにいることは、唯々勿体無いと言わざるを得ない。

そこで本調査では、子どもの柔道指導に携わっている指導者に焦点を当てて、「楽しい指導を展開している」オランダの柔道指導者の指導理念を明らかにすることを目的としてアンケート調査を試みた。尚、より客観的なエビデンスを得ることを目的に、指導映像についての提供も併せて求めることとした（本資料では、映像は割愛する）。

得られた結果から期待できる効果としては、既述した日本で課題視されている「楽しい柔道授業」「安全な柔道指導」を実現するための指導者側の指導理念の何が重要であるかをグローバルな視点から改めて可視化できることである。

## II. 研究方法

### 1) 調査対象

オランダ柔道連盟指導者協会に所属する指導者30名に直接アンケート調査を依頼（オランダNOVA大学 Joop名誉教授を経由）し、16名の回答（回答率53%）を得られた（それぞれの回答については、資料に添付）。調査期間は、2019年12月25日～2020年2月10日とした。

### 2) アンケート調査紙並びに分析の方法

性別、年齢、職業、柔道の経験などの属性を問う質問項目並びに、「柔道指導において、子

表1 回答者一覧  
Table 1 List of respondents

回答者No	回答者	備考	学び年月	指導歴(年)
1	Erik Klaessens		未回答	36
2	Jorien van Beek		33年6か月	23
3	Richard de Bijl		60	50
4	Joop Pauel		62	42
5	Mark Betta	動画のみ	35	48
6	Ivor Hiltrop		56	39
7	Evelien Beentjes	あとで写真が送られてくる	未回答	未回答
8	Peter Puntman		50	40
9	Frits van der Werff		61	54
10	Warner Salomons		49	44
11	Barry Piroli	動画あり	40	29
12	Wil Luschen	動画あり	未回答	30
13	Eric Bos	写真あり	52	36
14	Sebastiaan Fransen	写真あり	24年5か月	13
15	Ad Rebel	動画のみ	未回答	未回答
16	W. Luschen	動画あり	54	30

どもを惹きつける具体的な方法と考え方」について自由記述で回答を求めるとともに、「具体的な指導映像・写真」の提供も求めた。この質問紙を英訳し、オランダNOVA 大学、CIOS 校名誉教授Joop Pael 氏へメール送付後、Joop 氏がオランダ柔道連盟指導者協会に所属する指導者30名にオランダ語の依頼文を添えてメール転送し、直接高橋宛のアドレスへ回答送付をして戴くこととした。

尚、得られたデータのうち、自由記述回答を翻訳し、その指導理念をKJ法によって分類した。

### 3) 分析の手順

得られたデータのうち質問6【Question 6】『In your judo instruction, please inform specific teaching way (one example) that will stimulate children's interest. (Free description)』【質問6】『柔道指導で、子どもの興味を喚起する具体的な指導方法（一例）を教えてください。』に

表2 アンケート用紙（回答者記載そのままを転載）  
Table 2 Questionnaire (Respondent description)

<p>回答者 No1</p> <p>The purpose of this study is to investigate the Judo teaching method for small children. The approved data is only used for research.</p> <p>We appreciate your cooperation. (For judo teacher)</p> <p>Door heel Japan Judo federation</p> <p>Question 1 Age (54) years old</p> <p>Question 2 Gender (male)</p> <p>Question 3 How many years have you been practicing judo? (42) year</p> <p>Question 4</p> <p>① Where do you learn Judo? (various clubs and teachers in the Netherlands but I learn most in Margraten (Engelbert) en Maastricht (Luschen)</p> <p>② How many years do you learn Judo? () year and () months ???</p> <p>③ How many years have you given judo? (36) Year</p> <p>Question 5 Which sports do you experience?</p> <p>(Judo) (Jui Jitsu) (Basketball) (Volleyball) (Handball)</p> <p>Question 6 In your judo instruction, inquire about a specific teaching method (an example) that will interest children. (Free description)</p> <p>* I teach the children to work with different names, made up by myself, so that the technology gets a different meaning. (eg Ippon Seoi Nage = muscle throw, De Achi Barai = magnet throw)</p> <p>* There will also be a build-up from low to the ground (working on 1 in 2 knees) so that the fall is less heavy in the first instance.</p> <p>* Each technique is given a structure in this way until they can finally implement this technique standing up. each time a facet is added to the technology, making it a fully-fledged technology.</p> <p>* Furthermore, each technique is taught with various methodologies, so that the technique remains "new", so that children will not get bored.</p> <p>I can write a book about this because every technique has its own learning method with me. It is both for me and especially for the students that they enjoy the Judo sport</p> <p>By Erik Klaessens</p>
--

示された、具体的な指導方法を示すパラグラフを抜き出し、和訳を行った後、KJ法によって指導理念ごとに分類を試みた（結果・表3）

### Ⅲ. 結果

以下に得られた結果をまとめた。

1. 調査対象者の年齢：33歳～74歳であった。
2. 調査対象者の指導歴・柔道の学びの年月：指導歴は13年～54年であった。学びの年月は、24年～62年とその経歴を超えている。
3. 調査対象者の性別：男性指導者14名、女性指導者2名であった。
4. 自由記述回答「柔道指導で、子どもの興味を喚起する具体的な指導方法」について、その英文を日本語訳し、16件のアンケートに記述された指導理念を示したパラグラフ全体を抽出し、その内容からKJ法によって指導理念ごとに分類を行った。その結果29パラグラフが抽出され（表3を参照）、その他を含む7カテゴリーに分類された（表4、図1参照）

表3 質問6のまとめ  
Table 3 Summary of Question 6

回答者 No	通し No	specific teaching method	具体的な教授方法	分類	
1	1	teach the children to work with different names,made up by myself, so that the technology gets a different meaning (eg Ippon Seoi Nage = muscle throw, De Achi Barai = magnet throw)	子どもたち（学習者）の理解・覚えやすい技名を使って教えている。	A	F
1	2	there will also be a build-up from low to the ground (working on 1 in 2 knees) so that the fall is less heavy in the first instance	安全面を考慮して低い姿勢で相手のことを投げるようにしている。	D	
1	3	each technique is given a structure in this way until they can finally implement this technique standing up. each time a facet is added to the technology, making it a fully-fledged technology.	理解が促進され、学習者の技能定着が起ころまで確実に段階的練習をさせます。	D	
1	4	each technique taught with various methodologies, so that the technique remains "new", so that children will not get bored	子どもたち（学習者）が、退屈しないように新しい試みを試しています。	C	
2	5	teach with pleasure	教えることに喜びを感じるようにしている。	B	
2	6	make sure the children learn something	子どもたちが確実に何かを学ぶよう工夫している。	A	
2	7	make sure the children have a success moment	子どもたちが上手ができたという瞬間を用意してあげる。	A	
2	8	make sure every child has a randori where they can score. As most children see randori as match.	子どもたちが得点できる乱取りを取り入れ、試合の感覚を味わわせてあげている。	C	

2	9	have ukemi in all lessons, but make it in different ways	受け身をすべてのレッスンに取り入れているが、毎回違うやり方で教えている	D	
3	10	make a lot of pleasure and fun	喜びと楽しさを与える	A	
3	11	have friendly discipline in following up the rules	分かりやすく守れるルールを工夫している。	F	
3	12	have consistency in following up the rules	そのルールを継続させていくように工夫をしている。(慣れることは、後退することでもある)	C	
3	13	make a good methodic and didactic in the lessons	良い教授方法、カリキュラム作り	F	
4	14	in the lessons learning is done	授業によって学習が進むように工夫をしている。	F	
4	15	there is variation in the lessons, so not the same warm up every week	レッスンではバリエーションを持たせているので、毎週ウォームアップは違う方法で行っている	C	
4	16	the judoka do not have to "learn what they can already do" ("if you have to learn what you can already do, the brains go out")	分かっていることを学ばせるということではなく、常に考えさせる学習を展開している。	E	
4	17	the lesson is challenging	授業は常に挑戦である。	A	
4	18	the lesson is safe, if new judo techniques are not offered methodically, unsafe situations may arise, the judoka must experience that judo is a safe sport	段階的レッスンは安全なはずである。しかしながら、新しい柔道のテクニックが系統的(段階的に安全に)提供されていない場合、危険な状況が発生する可能性があることを念頭に置き、柔道教師は柔道が安全なスポーツであることを前提に教授に努めるべきである。	D	
4	19	there is interaction between the judoka and the sensei	学習者と授業者の間に相互作用があり、それを重要視している。	G	
4	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ when learning or improving a judo technique, I am not going to tell exactly how to implement this technique (explicit learning)</li> <li>・ as an example, I give the judoka the opportunity to discover for themselves how they can do their kumi kata and I do not tell exactly how to place their feet.</li> <li>・ only if the technique fails I show it again and give them a small clue.</li> </ul>	教え込むことに終始せず、学習者が学習の道筋を発見できるような工夫をしています。ただし、学習者が上手くいかなかった場合には、適切に手を差し伸べることは厭わないようにしています。(発見学習と適時的即時フィードバックの注視)	E	
4	21	I often give assignments where they can come up with variations themselves. for example, Tori makes an O Uchi Gari, Uke defends, Tori moves on to Ippon Seoi, Uke rolls on to the prone position, Tori makes a "hook" and turns uke on his back to make an Osaekomi, Torke responds Uke's defense an always grabs over to another Osaekomi.	学習者が、常に学習したことを次の段階に応用できる手掛かりを示しながら教授の工夫をしている。	E	



8	22	make the Judo technique fun to practice with help of tools (ball, belt, big mat, sticks)	ボールや帯、大きいマットやスティックなど道具を使って練習が楽しくなるよう工夫している。	A	C
9	23	in special education, for children with learning difficulties. Within this education I have introduced Judo. The way in which I teach my lessons is that, as far as Judo is concerned, I teach, I work as much as possible with movement relationships. The most important pillar of sports education is the pleasure of moving. If you enjoy judo or any sport, you can keep it up longer.	障害児のための教育は、学ぶことの難しさがある。 教育のなかで自分は柔道を紹介している。できるかぎり柔道における動きの繋がりを教えている。 スポーツ教育において、一番重要な柱は体の動きによる喜びだと思う。もし柔道や他のスポーツを楽しみ感じたら、長く続けられる。	A	
10	24	For children (4,5 years old) I refer in my exercises to fairy tales and tv programs, (6-10 year) more forms like estafette and team exercises. All these exercises are of course directly connected to Judo. Important in my lessons is that they don't get bored. So variety in the way to offer and present judo techniques is essential	4-5歳児のエクササイズには、妖精とテレビ番組を取り入れている。 6-10歳の子どもには、estafetteのような動きとチームで取り組むエクササイズを取り入れている。 これらすべてのエクササイズは、もちろん柔道に直接繋がるものである。わたしのレッスンで大切にしていることは、子どもたちが退屈しないということ。柔道の技を変化に富んだ方法で教えることは必須である。	A	C
12	25	all exercises can be applied in tap games or reaction games. Children like games very much, so I apply very often games in my lessons.	子どもたちはゲームが大好きなので、タップゲームかアクションゲームをレッスンに取り入れている。	A	C
13	26	do a game "King of the Island" which has rules	キングオブアイランドというゲームを取り入れている	A	C
14	27	I think almost all children like to play around and wrestle. Therefore I use a lot of games aimed to improve their moving.	子どもはみんな遊びや格闘が好きだと思うので、子どもたちの動きを改善する目的でたくさんゲームを取り入れている。	A	G
15	28	from video	抑え技と逃れ方の練習の工夫として、指導者がサジェスションを与えながら、連続性を持たせた攻防を展開する。	F	
16	29	from video	日本と同様な技の指導により、安全性を確保した教え方の工夫がみられる。	D	F

※表内の specific teaching method の英文はアンケート回答原文を転載



表4 分類結果  
Table 4 Classification result

A	子どものモチベーション	11
B	自身のモチベーション	1
C	新鮮な感覚	8
D	安全性	5
E	自ら学ぶ力	3
F	分かりやすさ	6
G	その他	2

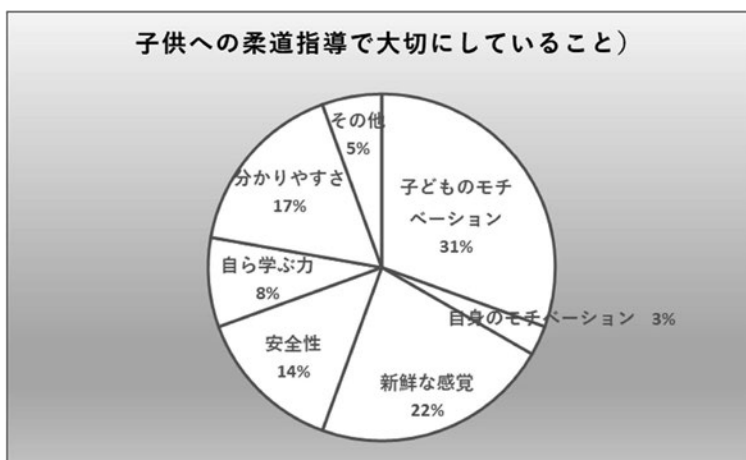


図1 子どもへの柔道指導で大切にしていること (指導理念)  
Figure 1 Guidance philosophy of Judo instruction for children

#### IV. 考察

得られた結果から次のようなことが理解できる。

(1) 「子どものモチベーション31%」「新鮮な感覚22%」の回答結果から、オランダ柔道指導者がその指導において重要視していることは、子どもへの意欲喚起であり、如何に子どものやる気を引き出すか、つまり指導アプローチへの工夫の重要性を第一にしていることが示唆された。日本における教科「保健体育・武道領域・柔道」の指導においては、「学習指導要領」や「柔道の手引書」などが示す指導範囲を逸脱することは禁忌であることは言うまでもないが、子どもの発育発達軸の中で、他の領域との関連性を模索する、柔道の動きづくりと楽しい動きへの緊密性を探求するなど、体育としての社会的価値、体育的価値に軸足をシフトした指導を行っていく重要性は否めない。提供していただいた映像資料（映像資料参照）から、上述下線部に示したオランダ指導者の姿勢を垣間見ることができるが、日本の教科柔道の指導においても、柔道という枠に囚われずスポーツ全体を更に科学的に捉え、教科教育的な視点から柔道指導を探求し教科指導に還元していくことが、グローバルな体育指導、スポーツ指導の観点からも更に今後求められることは必至である。

(2) 日本において、柔道指導の第一義的な課題は、長らくその「安全性」とされているが、オランダにおいても、その「安全性14%」は、アンケート結果が示すように指導理念にとって重要視されていることが示唆された。指導者のアンケート回答の中で「段階的のレッスンは安全なはずである。しかしながら、新しい柔道のテクニックが系統的（段階的に安全に）提供されていない場合、危険な状況が発生する可能性があることを念頭に置き、～柔道教師は柔道が安全なスポーツであることを前提」という記述が印象深い。「柔道指導は安全であるべきだ」という主張ではなく、「安全である」ということを前提としてカリキュラムの作成や柔道指導の工夫を実践していることは頼もしい限りである。

(3) ところで、『新学習指導要領の改訂の考え方ー中央教育審議会における議論から改訂そして実施へー・創意工夫に基づく指導方法の不断の見直しと「授業研究」』の記述の中に、「教育方法に関するこれまでの議論においても、子どもたちが主体的に学ぶことや、学級やグループの中で協働的に学ぶことの重要性は指摘されてきており、多くの実践も積み重ねられてきた」という件があるとおり、新学習指導要領の理念において「学びに向かう力」の涵養はその中核をなしていることは改めて言うまでもない。本調査の結果の中で、オランダ柔道指導者もその指導理念の中で「子どもたちの自ら学ぶ力の涵養8%」「その他・指導者と子どもの相互作用」を挙げており、いわゆる柔道指導は柔道技術のインストラクションに留まらず、子どもの心の学びの重要性を示唆していることも注目に値することである。柔道を日本の武道として捉えていることは当然であるが、スポーツの持つ価値との融合が既に図られ「グローバル柔道」としての新たな不断の価値を生み出していることが窺える。

(4) 「分かりやすさ17%」「新鮮な感覚22%」の回答結果は、道指導者が、常に学習者の側に立って指導をしていることを示している。本調査対象者の柔道指導歴に比較して、柔道の学びの年月の範囲が遥かに超えている（Ⅲ結果参照）ことから分かるように、指導者自身が、指導の方法について常に学び続けていることを示唆しており、日本の柔道指導者・体育教師の研修制度の再考における視点になることは否めない。



写真1 (Photo1)



写真2 (Photo2)

## V. まとめ

本調査では、オランダ柔道指導者の指導理念を子どもの柔道指導に焦点を当てて明らかにすることを目的とした。尚、より客観的なエビデンスを得ることを目的に、指導映像についての提供も併せて求めることとした。

得られた結果は以下の如くであり、オランダ指導者自身が、指導の方法について常に学び続けている実態も明らかとなった。学習者の視点に立った柔道授業・指導の担保、あるいは、「楽しい柔道授業」「安全な柔道指導」をグローバルな視点から理解するためにも、今後の日本の柔道指導者・体育教師の研修制度の再考が求められることは必至である。

- (1) 「子どものモチベーション31%」「新鮮な感覚22%」の回答結果から、オランダ柔道指導者  
がその指導において重要視していることは、子どもへの意欲喚起であり、如何に子どもの  
やる気を引き出すか、つまり指導アプローチへの工夫の重要性を第一にしていることが示  
唆された。
- (2) 日本において、柔道指導の第一義的な課題は、長らくその「安全性」とされているが、オ  
ランダにおいても、その「安全性14%」は、アンケート結果が示すように指導理念にとっ  
て重要視されていることが示唆された。
- (3) オランダ柔道指導者もその指導理念の中で「子どもたちの自ら学ぶ力の涵養8%」「その  
他・指導者と子どもの相互作用」を挙げており、いわゆる柔道指導は柔道技術のインスト  
ラクションに留まらず、子どもの心の学びの重要性を示唆していることは注目に値する。
- (4) 「分かりやすさ17%」「新鮮な感覚22%」の回答結果は、道指導者が、常に学習者の側に立っ  
て指導をしていることを示している。併せて本調査対象者の柔道指導歴に比較して、柔道  
の学びの年月の範囲が遥かに超えている（Ⅲ結果参照）ことから分かるように、指導者  
自身が、指導の方法について常に学び続けていることを示唆している。

\*尚、本調査は、平成31年度 武道等指導充実・資質向上支援事業（テーマ3：支援体制の強化）  
の委託事業の申請書「2. 事業の内容-② 事業概要-オ」に示した内容『ヨーロッパにおけ  
るクラブ有資格者の学校体育活用の実態とその有効性を明らかにするためのアンケート調査』  
に関連する調査の一部をまとめたものである。

## 引用・参考文献

- 1) 木原誠一郎：イギリスにみる学校体育カリキュラム改革の動向，スポーツ教育研究，22-1：39-48，2020.22-1：49-54，2002.
- 2) 岸 政継：オランダの教育事情について（在留国の社会，自然，教育），在外教育施設における指導実践記録（東京学芸大学），33：212-215，2010-12-24.
- 3) 文部科学省：幼稚園教育要領，2017.3 [https://www.mext.go.jp/content/1384661\\_3\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1384661_3_2.pdf)
- 4) 文部科学省：小学校学習指導要領，2017.3 [https://www.mext.go.jp/content/1413522\\_001.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1413522_001.pdf)
- 5) 文部科学省：中学校学習指導要領，2017.3 [https://www.mext.go.jp/content/1413522\\_002.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1413522_002.pdf)
- 6) 文部科学省：高等学校学習指導要領，2018.3 [https://www.mext.go.jp/content/1384661\\_6\\_1\\_3.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1384661_6_1_3.pdf)
- 7) 岡出美則：ドイツにみる学校体育カリキュラム改革の動向，スポーツ教育研究，22-1：39-48，2020.
- 8) 寺島善一：英国のカリキュラム改革と体育・スポーツ，明治大学人文科学研究所紀要，45：103-119，1999.